

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190600302		
法人名	株式会社 大起エンゼルヘルプ		
事業所名	グループホームなごみ島		
所在地	埼玉県春日部市米島350-1		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 28 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 2 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年 2階がオープンしたが1階 7名 2階 4名と中々入居者が増えない状況が続いているが、年ないには2名入居が予定されている。毎日のゴミだしや散歩、食事作りを通して画一的なケアにならないように心がけています。運営推進会議、家族懇談会をホームにて開催を再開し運営を行っております。「自分でできることは自分で」「互いに助け合って」「社会とつながって」の理念をあげ、少しずつ地域の一員にとけこめるように努めてまいります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 6 年 1 月 12 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長は法人理念である、「自分でできることは自分で」「互いに助け合って」「社会とつながって」を基に支援をおこなっている。職員は日常生活から利用者の能力を見つけ、洗濯物たたみや食事作り等、個々の得意なことに参加できるよう促している。その結果自立度が向上し、介護度が下がった利用者もいる。またホームでの生活は家庭での生活の延長であり、基本はあっても個々のリズムや生活習慣を大切に、食事時間や入浴回数、外出等、臨機応変な対応をしている。地域とのつながりは徐々に確立してきており、運営推進会議や春日部市グループホーム連絡協議会を通じ、地域の情報を得たり、民生委員、自治会長の協力を得る等、地域密着事業として積極的に地域活動の参加に努めようと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	なごみの理念である「自分でできることは自分で」「互いに助け合って」「社会とつながって」を柱とし運営を行っています。	ホーム長は法人理念の一つである「自分でできることは自分で」を日常生活に活かし、支援をおこなっている。理念は日々日常的に、職員と共有を図り、個々が自然に能力を発揮できるような支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な買い物や周囲の散歩などを行っています。買い物に出かけるお店。理容室などの顔つなぎができています。自治会の加入している。	散歩途中で近隣の人と会話を交わしたり、畑や庭で採れた野菜や果物をもらう等日常的に交流をしている。また自治会に加入し、地域活動に参加を予定し、利用者と一緒に地域貢献活動ができたかと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献までできていませんが。毎日入居者さんと散歩に出かけたり。ホーム前の駐車場で日向ぼっこをしている際に地域の方々と交流が取れたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催しなごみでの取り組みや現状などを報告し意見交換している。	民生委員、自治会長、大家さん、家族、職員が参加し運営推進会議を開催した。事故内容や運営状況、平均年齢等を報告した。この会議をきっかけに避難訓練に、民生委員、自治会長の協力を得ることができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	春日部市グループホーム連絡協議会には、Zoomにて参加し米島を知ってもらうことが出来た。	春日部市グループホーム連絡協議会に参加し、運営状況や相談ごとを伝え、情報交換をしている。次回は役所の会議室で開催が予定されている。役所に書類等直接持参し協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会を開催しております。職員さんには年2回の研修を実施しました。	3カ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催する他、年2回研修をおこなっている。柵でベッドを囲まない、机に座っている時椅子を付けない等、具体的な内容になっている。玄関の施錠はせず音がなる工夫をし、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の虐待を防止する研修を行い、職員さんにぎゃくたいへの知識を深めて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者さんに後見人制度をご利用されている方はおりませんが、今後の入居者さんに対応できるように制度について学んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し、管理者から重要事項説明書をもとにご家族様に理解、納得していただけるように配慮しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんの体調、状況の変化をご家族様にお知らせし連携を取っていきます。	運営推進懇談会や面会時に意見を聞くようにしている。その他毎月郵送する請求書に利用者の写真や様子を記入したお便りを同封しており、お便りには意見を記入する欄を設けている。現在意見等はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などを通し、職員さんの意見を出していただけるようにし、運営に反映させております。	全体会議やフロア会議で職員の意見を聞く他、ホーム長宛のレターケースに職員はその都度意見や提案を入れている。あがった意見は検討したり、提案を取り上げ、より良い運営に繋げるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員さんが自分自身の仕事に自信を持てるように管理者や先輩職員が話を聞く機会を設けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の特徴をとらえ、個々の個性を生かせるように伝えていきたいと思えます。事業所内研修だけではなくWebを使った研修にも参加させていただいています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できる限り同業者との連絡が取れるように時間を設けていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にできる限り入居者さんご本人の思いをくみ取れるよう努力しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接で、できる限り詳しくお話をお聞きしてなるべく不安が小さくなるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が出来て何に支援が必要なのか入居後には、しっかり確認ができるように取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り今までの生活環境に近い生活が、共同生活の場で実現できるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との距離が離れすぎないように、ホームでの状況などをお伝えし家族との関係を大事にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚やお孫さんなどと関係が崩れないように支援に努めています。	家族、孫、友人、知人等、利用者との関係を継続できるよう努めている。来場者と写真を撮り、記念に残したり、また家族と電話の際は利用者本人と電話を代わり喜ばれている。家族との外出も可能としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士が大きなトラブルにならないよう、職員が間に入り対応していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後もご家族様との関係性を大事にし、なごみ米島以後のサービスにつながるよう支援していきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分のことはなるべく自分で行えるように見守ることを続けていきます。	日常の会話の中から利用者の思いを把握するよう努めている。「自分ができるとは自分で」の理念の基、やってみてできるかできないか、どんなことが好きか嫌いを見極め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の居室には馴染みのある寝具や洋服を用意していただき、今までの生活にちかいくかんづくりに心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝起きて、夜寝る。1日3食をしっかりと食べるといった大まかなスケジュールの中で入居者さんらしい生活が送れるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、計画作成担当者を中心に、職員会議で入居者さんらしい生活ができるように支援していきます。	入居前に自宅を訪問し家族、利用者からホームでの生活の希望を聞き、暫定プランを作成している。その後毎月職員は会議で話し合いをし、利用者の現状に即した介護計画を作成し、支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当社では4月よりケアカルテを導入しています。ケアプランに反映できるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共同生活の中でできる限り、その人らしく生活が送れるように支援していきます。ホームだけで完結しない方法を考え取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物など入居者さんと一緒にでかけ暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望を大切にしている。受診が難しい入居者さんは、訪問診療を導入している。ホームと関係を築き適切な医療を受けられるように支援している。	利用者はホームの協力医師による訪問診療を月一回受けている。医師は24時間対応とし、緊急時も指示を仰ぐことができる。利用者の状態はチャットを使用し情報共有を図っている。月2回歯科の訪問もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護が全員にあり、入居者の体調や状況の変化などがあるときには、相談させていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院の際にご家族とともに可能であれば管理者が同行させていただき、関係性を築けるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてご家族様 医療と話し合いを行いホームでできることを十分に説明し方針を共有しチームで支援に取り組んでいます。	契約時に看取りについて説明を行い、その後は食事や水分量が減った時等、状態の悪化時に主治医から説明を行い方針を決めている。利用者が穏やかに安心して最期を過ごすことができるよう、関わる人たちとチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先や順番などをマニュアル化し職員で共有しています。急変時にしっかりと手立てが取れるように職員会議で話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練や通報訓練を通じ職員さんへ災害に対する意識付けを行っています。	民生委員、自治会長が参加し火災と水害の避難、消防署への通報、消火訓練をおこなった。避難時の持ち出し袋や非常食は1週間分備えている。職員は順番に訓練に参加しており避難方法を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんには「さん」をつけて呼んでいます。排泄や入浴などではプライバシーを守れるよう配慮した支援を行っています。	個々の尊厳を大切に「〇〇さん」と呼ぶこととしているが、以前からの呼び方を尊重し名前にちゃんをつけて呼ぶこともある。入居時に写真や個人情報の説明、同意を得ている。職員は定期的に研修をおこなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の食事の献立を入居者さんの意見を取り入れるようにしています。日々生活の中で、自身の思いを聞けるよう支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、今までの生活に近い生活ができるようにご自身の意思で動けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性であれば毎朝ひげを剃ったり、外に出かける時には自身で服を選んでいただいたり出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事ごとに入居者さんの出来ること行っていたき、一緒に準備や片付けを行っています。	利用者の希望を聞きながら、利用者と一緒に食事を作っている。食材を切る、洗う、配膳、食器洗い等に利用者は参加している。食材を伝えると利用者から利用方法の提案がでる。家庭的な食事は喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスは取れていませんが、食事量や水分量を記録し、健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。口腔内の変化を職員さんが確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄をしてただけるように支援しています。ご自身でトイレに行かない方には声かけトイレに行けるようにしています。	職員は、自身でトイレに行ける人には、声かけはしないが、利用者がそわそわする時等、その日の状態と状況を見極め、声をかけたりトイレまで誘導をしている。紙パンツから布の下着になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤に頼らないように、水分量や食事に気をかけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人で入浴できる方には準備と見守りを行っております。入浴できる回数と、入浴時の満足度を考え支援しています。	入浴剤やゆず湯、菖蒲湯、お湯を出しながら等、温泉気分を演出し楽しめるよう工夫をしている。また職員と1対1になる入浴時での会話を大切にしている。入浴後は保湿剤を塗り皮膚の状態観察をしている。	利用者は入浴することで気持ちも身体もリラックスし満足しているのではと推測できるが、清潔が保てるよう気を配り、更なる満足感が得られるよう期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜にしっかりと眠れるように、日中の活動に取り組んでおります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が事務所で管理しています。毎食後、職員同士でチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さん一人一人に合わせた生活を目指し、出来ることを職員が奪ってしまわないように心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブなどでホームだけで生活を完結しないように心がけています。	毎日近隣を散歩して、気分転換を図っている。買い物は人込みを避け、近隣商店や和菓子屋さんにおやつを買いに行っている。顔なじみになり、会話を交わしたり頂物をする等、交流を楽しんでいる。またドライブも楽しみの一つになっている。	外出は、どうしても歩行ができる利用者が優先され一部の人の楽しみになってしまいがちだが、利用者全員で外出し、平等に全員で楽しめる機会を持つことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は個人では難しいため、入居者さん自身では現金は持っていませんが、ご家族様より預けていただいているお金で、欲しいものなどあれば買いに行けるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より希望があった時には対応しています。ご家族様よりかかってきた時などお声がけています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さん、職員さんが一緒に掃除が出来るように支援しております。自身のお部屋も協力し掃除するようにしております。	利用者は窓から陽が入り、暖かく明るい食堂で、日中は過ごしている。職員は利用者の様子からその日、その時のレクリエーションを考え、歌を唄ったり、体操をする等無理なく参加ができ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になれるところは多くありませんが、キッチン内や事務所などで落ち着けるように声をかけることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご自身になじみのあるものを多く使用し、今までの生活に近い空間を空間を作るように努めております。	居室は全室畳が敷かれ、布団で寝られるようになっている。利用者の馴染みのある物を持ち込んでもらい居心地よく過ごせるよう工夫をしている。掃除は毎日職員と一緒にいき、清潔を保つよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビングなどには段差がなく、自身で歩くことが続けられるようになっています。入居者さんが行きたい居室やトイレがわかるようにしています。		